

新型防雪柵の出展を予定

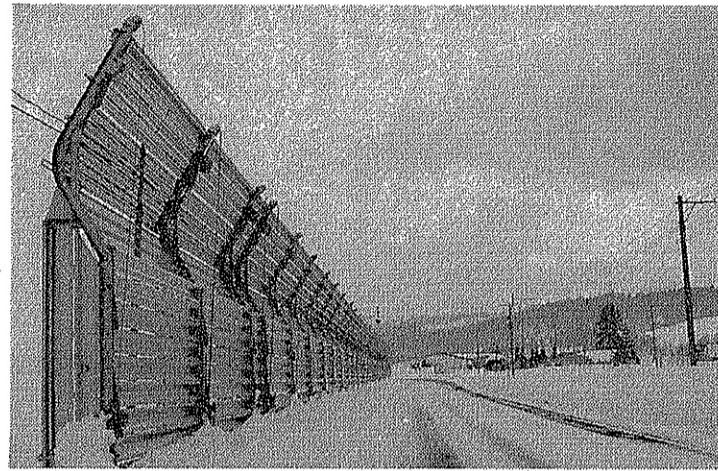
＝ 理研興業 ＝

2月18・19日開催 ゆきみらい2010 in 青森に

県内でも長年実績のある防雪柵メーカーの理研興業(本社・北海道小樽市 柴尾耕三社長)では、2月18日(木)・19日(金)の両日、青森市を会場に開催される『ゆきみらい2010 in 青森』

見本市への出展を予定している。当日は新型の防雪柵の展示・自動収納型防雪柵の作業実演・製品の機能解説・実施事例の紹介等を行う。

理研興業は、これまで対策が困難とされてきた斜風に対しても高い効果を発揮する「斜風対応型防雪柵」(実用新案登録)を北海道工業大学機械システム工学科・白濱芳郎教授の研究室と共同開発、生産販売を開始した。防雪柵鉛直部に対し垂直に取り付けられた整風板により、飛雪を整風板の風上側に推積させる事で、路上への巻き込み防止、視程障害の緩和を実現する画期的な製品。斜風の防雪柵設置にて課題とされていた、端部や開口部からの巻き込みに対応できるため、開発当初、整風板部の3つの部分で構成されてお



【斜風対応型防雪柵整風板タイプ】

り、直立部と整風板部が遮蔽率100%の無孔板、忍び返し部には遮蔽率70%有孔板を使用している。同防雪柵の最大の特徴である整風板は、幅約0.5mで高さは直立部と同じで、直立部に対し垂直に取り付けられており、間隔は1.5m毎。これにより、柵本体に対して斜めに吹き付ける風雪を、各スパン毎に堆積させる一方、忍び返し部で飛雪の巻き込みを防ぐことができ、その結果、従来型防雪柵で課題とされていた柵に沿って流れた飛雪が端部や開口部から路上に吹き込むのを防止、吹き溜まりを飛躍的に軽減させる。山

間部を走る道路など、主風向が道路に沿って流れ込む箇所は、従来型の防雪柵では効果が低く、必要性でありながら設置できない場合も多かった。実用新案を取得した斜風対応型防雪柵は、こうした箇所にも最適な製品で、北海道工業大学と共同研究し、風洞実験をはじめとした各種試験により効果も実証済み。無雪期には、下部を折り畳んで収納すること

で、景観的にも配慮しており、すでに国土交通省東北整備局青森河川国道事務所・山形河川国道事務所・酒田河川国道事務所・福島河川国道事務所採用されている。

さらに、理研興業は、従来型の吹止式と吹払式の利点を併せ持った「誘導板付忍び返し柵」や、カラマツ間伐材と鋼材を組み合わせた景観性能を追求した「木製高性能防雪柵」、翼型高性能防雪柵の採用により柵の高の約8倍という飛躍的な効果領域を有する「上下分流高性能防雪柵」など、時代のニーズや様々な現地条件に対応した製品を次々と開発。また、視程計や車載型ビデオカメラ・風向風速計・温度計などをパソコンとリンクさせた装備を有する移動気象観測車を導入し、柵設置の効果や、吹雪対策必要箇所の検

証を行い、製品の開発設計に役立てており、同社の柴尾社長は「どんな難しい現場にも対応できる製品を取り揃えるのが専業メーカーとしての責務。今後とも当社の技術力を生かして、これからの防雪柵の一層の高性能化を図るとともに、それぞれの地域の条件にマッチした製品の開発に力をいれ、安全で快適な道づくりに貢献していきたい」と述べている。

詳細問い合わせは、同社東北営業所 青森市古川1丁目10番13号(AQUA古川1丁目ビル2階) 電話017-735-11888 FAX017-735-12511まで。

川国道事務所採用されている。

詳細問い合わせは、同社東北営業所 青森市古川1丁目10番13号(AQUA古川1丁目ビル2階) 電話017-735-11888 FAX017-735-12511まで。

詳細問い合わせは、同社東北営業所 青森市古川1丁目10番13号(AQUA古川1丁目ビル2階) 電話017-735-11888 FAX017-735-12511まで。